



▲下川沿駅駅舎の真向かいにある石碑

小林多喜二の生誕の地を訪ねてきました。コロナ禍で外出は控えていたのですが、一度は行つてみたいと思つていたので、最上県本部会長の誘いに乗ることにしました。

当日はあいにくの雨模様で雨合羽を用意して出かけました。会長自ら運転してくださるということなので、図々しく甘えさせていただきました。大館までは本当に長い道のりで、生来の方向音痴の私は、どこをどう走っているのかほとんどわからずじまいでした。改めて一人で行けと言われても無理だろうと思われた。

約2時間ほどの「ドライブ」でしたが、到着した場所はJR奥羽本線「下川沿駅」でした。改札口があるばかりのこじんまりとした無人駅です。

小林多喜二の生誕の地を訪ねてきました。コロナ禍で外出は控えていたのですが、一度は行つてみたいと思つていたので、最上県本部会長の誘いに乗ることにしました。

当日はあいにくの雨模様で雨合羽を用意して出かけました。会長自ら運転してくださるということなので、図々しく甘えさせていただきました。大館までは本当に長い道のりで、生来の方向音痴の私は、どこをどう走っているのかほとんどわからずじまいでした。改めて一人で行けと言われても無理だろうと思われた。

このあと、「生家跡」（「プレート」あり）、近所の子供たちと遊んだという八幡神社、小林家縁者代々の墓、公民館の「多喜二コーナー」、そして「文学碑」のある大館郷土博物館へと向かいました。



【秋田県版】
No. 360
2021年6月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

発行人：田中幹夫
〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4

秋田県本部
〒014-1413
秋田県大仙市角間町
宇東中上町27
最上健造方
TEL&FAX
0187-65-2115

同盟運動の目的

- 1、国は、治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
- 2、国は、治安維持法犠牲者に謝罪し、賠償を行うこと
- 3、国は、治安維持法による犠牲者の実態を調査し、その内容を公表すること

小林多喜二を訪ねて

「不届」編集担当 相川修一

一

待ち合わせていたのは、大館鹿角支部副会長の糸田恒忠さんです。

まず最初に目にしたのは、大館の無人駅の敷地内で真向かいにある「小林多喜二生誕の地」の碑です。当初は一九五七年（昭和32年）下川沿駅の下りホーム西端の私有地に建立されていたのですが、30年近く経ち、地盤が緩み土台が傾きかけたことなど、隣接する民家への環境にも問題が生じたため地元有志の尽力で移設されたとのこと。

このあと、「生家跡」（「プレート」あり）、近所の子供たちと遊んだという八幡神社、小林家縁者代々の墓、公民館の「多喜二コーナー」、そして「文学碑」のある大館郷土博物館へと向かいました。

秋田の土崎騒擾事件は大正九年（1920）の衆議院議員選挙（納税要件を満たす二十五歳以上の男子のみ選挙権）の不正行為を糾弾するため起つた騒動だった。五月二十三日、土崎蒼龍寺で不正投票の糾弾をした首謀者が棚橋貞雄といふことで当局に検挙されるが、そもそも貞雄は二十一歳で、選挙権がないことでもだらう免訴となる。

この年の五月、日本で初めてメーデー行事が行われたことなどもあって、若い貞雄は意気が高揚していたであろう。でも、秋田の在野でいたので、中央の労働運動にも造詣を深くしておかねばならない

秋田の土崎騒擾事件は大正九年（1920）の衆議院議員選挙（納税要件を満たす二十五歳以上の男子のみ選挙権）の不正行為を糾弾するため起つた騒動だった。五月二十三日、土崎蒼龍寺で不正投票の糾弾をした首謀者が棚橋貞雄といふことで当局に検挙されるが、そもそも貞雄は二十一歳で、選挙権がないことでもだらう免訴となる。

この年の五月、日本で初めてメーデー行事が行われたことなどもあって、若い貞雄は意気が高揚していたであろう。でも、秋田の在野でいたので、中央の労働運動にも造詣を深くしておかねばならない

棚橋貞雄の「こととも（その3）

～小児科医勝子との出会い結婚～

棚橋 正博

寄稿



と翌年上京し、明治大学（政治経済学科）へ入学、すぐに山川均の水曜会に入り、早稲田大学の安部磯雄などとも交流を持つようになる。

時を同じくして原勝子（秋田魁新報などは原城勝子とするが、家伝では原勝子、原力と称している）も北海道から上京し東京女子医専（東京女子医学専門学校、四回生）の学生になっていた。入学後、堺真柄や山川菊栄などが無産婦人の解放を目指し結成した赤瀬会に入会し、大正十一年（1922）三月八日の第一回国際婦人デーにも参加している。

貞雄と勝子の出会いについて私は知る由もないわけで、

二人は昭和二年（1927）二月十二日に結婚し、病院は解雇され、五月十日に土崎港で九年生まれの私の実母キナ（旧外旭川村生まれ）は勝子の診察を受けているのである。玄関や廊下に野菜類が並んでいたことだけは記憶していて、

谷幸三が共産党から秋田市市議員選挙に出馬する折などに、秋田在住の昔の事情を知る人たちに話を向けたが返答は得られなかつた。私も若かつたので、貞雄・勝子のロマンスがあるに違いないと興味深かつたが、いまだ分からぬまま歳月だけが流れている。

勝子は東京女子医専を卒業して東京の大森駅前の病院で小児科医として勤務、やがて秋田赤十字病院で勤務する。秋田赤十字病院に赴任したのは本人の希望で、貞雄とともに活動をしたかったからだろうと思うのだが、詳しいことはわからない。

二人は昭和二年（1927）二月十二日に結婚し、病院は解雇され、五月十日に土崎港で九年生まれの私の実母キナ（旧外旭川村生まれ）は勝子の診察を受けているのである。玄関や廊下に野菜類が並んでいたことだけは記憶していて、

治療費が払えず、代わりに作物が届けられていた当時の様子を語つて聞かされた。

三・一五事件で投獄され貞雄は獄中で結核を罹病、出獄後、勝子に結核がうつり、静岡県熱海で療養中、昭和八年十月四日に、三十四歳の若さで勝子が亡くなつたと諸資料には記されている。だが、しかし、家人の話とは齟齬する。特高警察に検挙され拷問による疲弊した結果の死だと父や祖母などは言い残している。

『不屈』四月号の全国版「抵抗の群像」で見た、特高の拷問による疲弊で亡くなつた相沢良と重なつて慄然とするだけである。（つづく）



▲右上会長と左糸田支部副会長

終わりに、大館鹿角支部の糸田さんにはほぼ一

最後に訪れたのは、多喜二の母セキの生誕地の碑でした。映画「母」（三浦綾子原作）で寺島しのぶが演じたセキの姿が頭をよぎりました。今は跡形もないのですが、二〇〇三年（平成15年）に地域の人々によって建立されたと記していました

◇ ◇ ◇ ◇



▲母親セキの生誕地の碑と筆者



日 小林セキ、81歳のころ

※『小林多喜二生誕の地を歩く』（治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟大館鹿角支部編集発行）は二〇〇八年三月二〇日に発行された六九頁の小冊子です。事前の情報に最適のガイドブックです。

お求めの方は県本部か大館鹿角支部へお申し込みください。



▲公民館入口正面に設けられたコーナー

秋田県の国體問題委員会に於ては、まさに聖地ともいうべき多喜二の生誕地に足を運べたことは意義深い一日だつたと思います。

多喜二は4歳の時に故郷の秋田を離れ北海道小樽へ、そして二七歳の時に上京しました。しかし、二度と故郷に帰ることができます。彼の作品、そして強い心を支えていたのはこのふるさとや母に対する強い愛だつたのではないだろうか。そんなことを思いながら帰路につきました。

生まれてからたつた四年間のふるさとです。それでも彼の作品のなかや様々な資料からは、生まれ故郷の記述が出てきます。彼の作品、そして強い心を支えていたのはこのふるさとや母に対する強い愛だつたのではないだろうか。そんなことを思いながら帰路につきました。

獄死した若き革命家 小川正治さんについて

同盟横手平鹿支部幹事 谷 正廣

回となくつまづいたり転んだりした。

その頃の米は一反歩から六俵位上がったが、そのうちの半分が小作米であった。

◇ ◇ ◇

彼は高等科二年を終えるとすぐに同じ分家の若勢（作男）に出された。最初

のうちは田畠に出て、夜はは離婚している。

婿だつた父はその後北海道に渡つた。母の実家は同じ新関で、田は二十町歩、小作人は四十五人、家族は十八人もいた。

その母の親父、つまり祖父は小作人の取り立てに正治や正作を使つたりした。

夕闇の中を歩いていくと、小作人の家の前のぬかるみにわら草履を突っ込んだり、暗がりのむしろの下がつた玄関先では足下が見えず何

ある。同じ部落の小松啓二郎らを通じて社会科学研究会に入り、急速に社会の矛盾に目覚めていった。

書物の手に入らない時代、彼は高等科の教師、富沢の藤原氏からひそかに本を借りたりして読んだ。一九三

一（昭和六）年、彼が十七

歳の時、鵜沼勇四郎を知つて全農連に入り十文字地区の役員になつた。

◇

一九三六年（昭和十一）年

二十五歳、懲役四年の刑を

殺された。

この翌年の三三年二月には全協の中央委員が全員逮捕され、小林多喜二是二月二十日検挙され、その日のうちに築地署で拷問の末虐

待に身を投じ、二十七歳で獄死された。彼の同級生たちは戦地に赴いていて、ほとんどいなかつた。

正治は、十七歳で農民運動に身を投じ、二十七歳で獄死したまでの十年間のうち、県連事務所襲撃事件の懲役六か月を含めて、三回の投獄で、実際に五年半も獄中で過ごして

いる。

自分の信念を貫き通した彼の不屈な姿を、我々は単なる過去のことと見過してはならない状況が今あることを強調しておかなければならぬ。

北海道に渡つていた正治の父が死体を受け取りに行つた時、刑務所では遅いと言つて怒つたが慰めの言葉はひとつもなかつたという。

正治の体には内出血の跡があり、そこが傷んでおつた。

彼の死体と一緒に渡されたものなかつたという。

正治の死体を受け取つたとき、刑務所では遅いと言つて怒つたが慰めの言葉はひとつもなかつたという。

正治の死体には内出血の跡があり、そこが傷んでおつた。

彼の死体と一緒に渡されたものなかつたという。

正治の死体を受け取つたとき、刑務所では遅いと言つて怒つたが慰めの言葉はひとつもなかつたという。

おくやみ



終えて家に帰つてきた時、身の丈六尺近い頑丈な彼の体は弱つていた。キリッとした端正な顔は半病人のように青白かった。（正二十一歳）

彼は酒も飲まずたばこも吸わなかつた。

この後、半年あまりを弟の正作とのんびり過ごしている。この年冬、兄弟二人は縄ないをしながら越した。外は雪がしんしんと降り、激しく拷問された正治の心を癒してくれたに違いない。

◇ ◇ ◇

春が来ると、彼は上京した。神奈川の陸軍工廠で働いた。彼は折から京浜地区で党再建のために活躍していた春日正一を中心とするグループと合流して闘つた。

弟の正作は兄を気づかい、東京で会つた。正治はボーナスで本を買ったと言つて、押し入れの奥から行李を引っ張り、中を見せたりした。東京の案内はもつぱら本屋ばかりであったという。

小川正治は一九四一（昭和十七）年八月十八日、巣鴨拘置所で獄死した。

弱冠二十七歳三か月の短い生涯であった。

彼は一九一四（大正三）年五月二日、十文字町新関に生まれた。母は中地主の長女で婿養子を迎えて分家し、彼はそこで次男として生まれた。

兄弟は四人だったが、長男は小さくして亡くなつていたので実質的に長男として育てられた。かれのすぐ下の妹はこの世を去つていて、彼より五歳年下で末っ子の正作が健在である。

その母の親父、つまり祖父は小作人の取り立てに正治や正作を使つたりした。夕闇の中を歩いていくと、小作人の家の前のぬかるみにわら草履を突っ込んだり、暗がりのむしろの下がつた玄関先では足下が見えず何

ある。同じ部落の小松啓二郎らを通じて社会科学研究会に入り、急速に社会の矛盾に目覚めていった。

書物の手に入らない時代、彼は高等科の教師、富沢の藤原氏からひそかに本を借りたりして読んだ。一九三一年（昭和六）年、彼が十七

歳の時、鵜沼勇四郎を知つて全農連に入り十文字地区の役員になつた。

◇ ◇ ◇

一九三六年（昭和十一）年二十五歳、懲役四年の刑を

殺された。

この翌年の三三年二月には全協の中央委員が全員逮捕され、小林多喜二是二月二十日検挙され、その日のうちに築地署で拷問の末虐待に身を投じ、二十七歳で獄死された。彼の同級生たちは戦地に赴いていて、ほとんどいなかつた。

正治は、十七歳で農民運動に身を投じ、二十七歳で獄死したまでの十年間のうち、県連事務所襲撃事件の懲役六か月を含めて、三回の投獄で、実際に五年半も獄中で過ごして

- 4 -

正治の死体を受け取つたとき、刑務所では遅いと言つて怒つたが慰めの言葉はひとつもなかつたという。

正治の死体には内出血の跡があり、そこが傷んでおつた。

彼の死体と一緒に渡されたものなかつたという。

正治の死体を受け取つたとき、刑務所では遅いと言つて怒つたが慰めの言葉はひとつもなかつたという。

正治の死体には内出血の跡があり、そこが傷んでおつた。

彼の死体と一緒に渡されたものなかつたという。

正治の死体を受け取つたとき、刑務所では遅いと言つて怒つたが慰めの言葉はひとつもなかつたという。

秋田支部
大海久善さん（72歳）

主演俳優決定

映画千代子運動

(17)

information

21.5.30

共同発行*「映画製作を支援する会」事務局

治安維持法同盟映画千代子チーム

担当・藤田=090-4527-1129

Fax 04-7174-2028 藤田:fujitahiro@outlook.com



井上百合子さん

プロフィール

1995年千葉県生まれ。
2018年武蔵野美術大学
造形学部卒。演劇集団・円
会員

【芸歴】
〔舞台〕「見よ、飛
行機の高く飛べるを」(円
研究所卒業公演)。(テレ
ビ)「刑事7人」他

代表撮影:植村恵美子

構想3年、

いま甦る 千代子のこころざし

タイトル発表

わが青春つきるとも —伊藤千代子の生涯—

独立プロ・桂 壮三郎監督作品/原作・藤田廣登著『増補版・時代の証言者 伊藤千代子』

10月からの映画撮影開始にあたり、桂監督は、主演俳優決定の5月12日、映画のタイトルを発表しました。監督は、この新タイトルにかける思いを次のように語りました。

「伊藤千代子が、人々の幸せのために悔いことなき青春を燃焼させ、治安維持法弾圧と長期の獄中闘争のなかで地しばりの花に寄せて命がけでたたかう決意をこめて生きた、その姿をこのタイトルに込めました」

「コロナ下、久々に心洗われる集いだった」 —「歓迎のつどい」に60人



5月12日夜、主演決定の報を聞いて、首都圏はじめ苫小牧、長野、愛知、滋賀県などからの参加者60人が全労連会館ホールに集いました。

八重樫節子さん(二期会会員)のソプラノでオープニング。司会は野口洋子さん(東京年金者組合)。

桂監督から千代子役に井上百合子さん(劇団・円企画所属)を決定したと紹介。井上さんはこの間、伊藤千代子の生涯を学び、全力で演じたいと決意を語り、会場からは惜しみない拍手が送られました。

同世代の稻葉美奈子さん(全労連青年部書記長)が花束贈呈。元劇団前進座俳優・嵐圭史さんが共演者として激励。土岐志のぶさん(日本朗読文化協会会員)が獄中書簡「地しばりの花」を朗読しました。ワタナベ・コウさんは、千代子の漫画化を試み秋には出版したいと語り、苫小牧の畠山忠弘氏は、千代子の「獄中書簡」発見に至る経過と北海道での映画製作運動での前進の取り組みを報告しました。参加者からは、「製作資金集めに倍する力を」「新コロナ下、久々に心洗われるような集いだった」と感想が寄せられました。

主要キャスト入り新イメージチラシ配布開始

★ A4カラー両面刷り
★ 無償提供
★ 申し込みは上記へ